世界最古のコククジラ化石
テシオコククジラ（約300万年前）

平成７年(1995)８月、天塩町男能富で発見された大型動物化石は、北海道教育大学の調査により、ヒゲクジラ亜目コククジラ科の標本であることが明らかになりました。

現在、コククジラは、北米大陸の太平洋沿岸と日本近海に生息していますが、日本近海では過去の乱獲によりあまり見られなくなってしまいました。

コククジラは、約170万年前の更新世以降に生まれた種とされてきましたが、テシオコククジラは、鮮新世後期(300～170万年前)の勇知層から発見され、約300万年前の世界最古の化石と推定されています。

なるほど！ ザ・コククジラ

コククジラの頸椎（レプリカ）

和名～克鯨　英名～Gray Whale
体色は灰色で、全身にフジツボやエボシガイがついた独特の姿。外洋に出ることはなく、沿岸部を約2万キロ回遊。現存ほ乳類の中で回遊距離は最長といわれる。体長12～14m、体重14～35トン。小魚・カニなど底生動物を補食。寿命は50～60年と考えられている。絶滅危惧種に指定。